

「家庭基礎」「公共」シラバス対照表

		家庭基礎				公共			
月	配当時間	学習項目	学習のねらい	配当時間	学習項目				
4	2	オリエンテーション「家庭基礎」の学習について A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1) 生涯の生活設計	家庭基礎の学習の意義や内容、学習や評価方法を理解する。	4	A 公共の扉 (1) 公共的な空間を作る私たち ア 次のような知識を身に付けること。 (7) 自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解すること。 (4) 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに社会的な存在であること、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解すること。 (6) 自分自身が自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解すること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (7) 社会に参画する自立した主体とは地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現すること。				
	2	(2) 青年期の自立と家族・家庭 ア 生涯設計の視点で青年期の課題を理解するとともに、・・・社会との関わりについて理解を深めること。	生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解する。 生涯を見通して、生活課題に対応した意思決定をし、責任をもって行動することが重要であることを理解する。			4	(2) 公共的な空間における人間としての在り方生き方 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (7) 行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解すること。 (4) 行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解すること。 (6) 諸資料から必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (7) 社会全体の幸福を重視する考え方と公正などの義務を重視する考え方などを活用し、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現すること。		
	4	イ 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、・・・家庭を築くことの重要性について考察すること。	家族、家庭について考え、家族の現状やこれからの求められる家族の機能について考える。					4	(3) 公共的な空間における基本的原理 ア 次のような知識を身に付けること。 (7) 人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解すること。 (4) 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解すること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (7) 公共的な空間における基本的原理について、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現すること。
5	B 衣食住の生活の自立と設計 (2) 衣生活と健康 ア (ア) ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができること。 (イ) 被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けること。	社会的習慣への適応などの社会的機能を理解する。 被服の入手、洗濯、保管など、衣生活を自ら管理する知識と技術を習得する。 組成表示や取扱い表示を理解し、着心地や管理を考えた被服の選択について考える。	4	大項目B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参加する私たち (1) 主として法に関わる事項 ○法や規範の意義及び役割 ・法には公法や私法などがあること、法は国民の行為を規制し社会の秩序を維持するだけでなく、国民の活動を積極的に促進し、紛争を解決するなど理解できるようにする。 ・法の支配を実現するために、法が備えるべき特質を理解し、法の適切さを考える視点を身に付け、法の内容を吟味して、よりよいものにしていくとする努力が大切であることを理解できるようにする。					
4	イ 被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装を工夫すること。	健康で安全かつ快適な衣生活を送ることについて考え、自分の個性を見つめ、自分の衣生活をふり返る。			3	○多様な契約及び消費者の権利と責任 ・契約が法的拘束力のある約束であること、契約によって売買などの多様な活動が行われること、様々な責任が生じることについて理解できるようにする。 ・不完全な意思表示に基づいて契約が行われる場合は契約が無効になったりすることを理解できるようにする。 ・消費者基本法や消費者契約法などを踏まえ、消費者の権利の尊重と消費者の自立支援の観点から考察できるようにする。 ・消費者が保護されるだけでなく、自らの権利や利益を守ることができる自立した主体になることとともに、持続可能な社会の形成に参画することが期待されていることを理解できるようにする。			
6	B (3) 住生活と住環境 ア ライフステージに応じた住生活の特徴、防災・・・計画・管理に必要な技能を身に付けること。 イ 住居の機能性や快適性、・・・住生活や住環境を工夫すること。	生涯発達の視点で、家族の生活に応じた適切な住居の計画や選択を考える。 住まい手やその家族の生活と各ライフステージに応じた住生活について考える。 安全で健康かつ快適な住居や耐久性の高い住居を選択するために、必要な住居の機能について理解する。 住生活にまつわる危険を知り、安全対策を考える。					4	○司法参加の意義 ・国民の権利を守り社会の秩序を維持するために法に基づく公正な裁判が保障されていること、公正な裁判のためには司法権の独立が必要であり、国民の参加が大切であることを理解できるようにする。	
7	D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	ホームプロジェクトと家庭クラブについて理解し、生活の課題解決をめざし、ホームプロジェクトの実践をする。	3	(2) 主として政治に関わる事項 ○政治参加と公正な世論の形成、地方自治 ・民主主義が民主政治の根幹であり、国会を中心とする民主政治の仕組みをとっていること、天皇が日本国などの象徴であること、内閣の助言と承認により国事に関する行為を行っていることなどを理解できるようにする。 ・民主政治は多数決が基本であるが少数者の権利や意見の尊重が必要であること、多様な意見を国政などに反映させるために表現の自由が重要であること、世論形成、政党、压力団体や住民運動の影響、マス・コミや SNS の働きが大きいことを理解できるようにする。 ・団体自治、住民自治について理解を深め、地方公共団体の首長と議会の議員はそれぞれ独立に選挙されること、直接請求権などに基づく仕組みが国政よりもより多く取り入れられていることを理解できるようにする。					
9・10	4	B (1) 食生活と健康 ア (ア) ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した・・・必要な技能を身に付けること。			食生活について考えを深め、食事の重要性について考える。 環境に配慮した食生活について考える。 中学校での学習を踏まえ、青年期と家族の各ライフステージの栄養的特質について理解する。	4			○国家主権、領土(領海、領空を含む)。 ・国際政治に関して、国際法の意義と役割について理解できるようにする。 ・国際法は統一的な立法機関がなく、国際司法裁判所の裁判も強制力が十分には機能しないことやグローバル化の中で国際法の重要性が高まってきていることを理解できるようにする。 ・領土が領空や領海を含むものであり、領土に関する国際的な取り決めについて理解できるようにする。 ・領土問題については、未解決の問題があるが平和的な解決に向けて努力することについて理解できるようにする。
	8	(イ) おいしさの構成要素や・・・目的に応じた調理に必要な技能を身に付けること。			食品の選択と衛生について関心を持ち、必要な知識を身に付ける。 食品の栄養的特質と調理上の性質について理解する。		3	○我が国の安全保障と防衛 ・日本国憲法の平和主義について理解を深め、変化する国際情勢の中で、我が国の安全が世界の平和の維持といかに関連しているかについての理解を深めることができるようにする。	
	2	イ 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承・・・自己や家族の食事を工夫すること。	目的を明確にした調理実習を行い、調理技術を習得する。	3	○国際貢献を含む国際社会における我が国の役割 ・日本国憲法の平和主義の理解や、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解できるようにする。				
4	A (3) 子供の生活と保育 ア 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、・・・乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けること。	子どもがどのように発達するか、どのように生活習慣が身に付くか理解し、子どもの健全な発達を支える親や周りのおとなの役割について考える。	3			(3) 主として経済に関わる事項 ○職業選択 ・現代社会の特質などの中で職業生活を捉え、望ましい勤労観などを身に付け、自己の個性を發揮しながら自らの幸福の実現と人生の充実という観点から、職業選択の意義について理解できるようにする。			
11	4	イ 子供を産み育てることの意義について考える・・・果たす役割の重要性について考察すること。					子育てに関する社会的支援や社会の一員として身近な子どもとのかかわりについて考える。 子どもの現状を知り、子どもの権利の保障や福祉について考える。	4	○雇用と労働問題 ・近年の雇用や労働問題の動向を、経済社会の変化や国民の勤労権の確保の観点から理解できるようにする。 ・労働者を保護するため、勤務時間など労働契約の内容に関しては労働基準法などによって契約の自由による就業規則などの制約が加えられていることを理解できるようにする。
	3	A (4) 高齢期の生活と福祉 ア 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、・・・基礎的な技能を身に付けること。		身のまわりの人びとに視野を広げ、高齢期の身体的および心理的特徴について理解し、現状の課題について考える。高齢者の個人としての側面について理解を深め、生活上の課題について考える。	5		○財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 ・市場経済において政府は、市場システムを機能させたり財やサービスを提供したりする役割があること、所得再分配や経済の安定化を図る役割があること、近年の経済の動向を踏まえて理解できるようにする。 ・納税が国民の義務であり、税金の使い道などについて納税者として関心をもつことが大切であることを理解できるようにする。 ・政府の経済政策には、効率と公正の確保、経済成長と環境保全の追求など相互に対立する可能性のある目標の実現を調整する必要があることや、税制は公平・中立・簡素の条件を満たすことが重要であることを理解できるようにする。 ・疾病や失業、加齢などにより発生する経済的な不安やリスクを取り除くために社会保障制度の意義などを理解できるようにする。 ・我が国の医療、介護、年金などの保険制度に見られる諸課題を理解できるようにする。 ○市場経済の機能と限界 ・公正で自由な経済活動を通して希少な資源の効率的配分をもたらす市場機構について理解するとともに、寡占や独占、外部不経済、情報の非対称性など市場機能の限界などについても理解できるようにする。 ・市場には商品市場、金融市場、労働市場など様々な種類があり、そこでは交換によって参加者に利益が生じるが、それは国内でも貿易でも同様であることについて理解できるようにする。		
	2	イ 高齢者の自立生活を支えるために・・・役割の重要性について考察すること。	超高齢社会を迎えている現状と課題について理解し、対策を考える。	4		○金融の働き ・金融の意義や役割を理解するとともに、金融市場の仕組みと金利の働き、銀行、証券会社、保険会社などの役割、中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解できるようにする。			
2	A (5) 共生社会と福祉 ア 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解すること。 イ 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察すること。	家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 私たちの生涯にわたっての生活保障のしくみについて理解する。 共に生きる社会をつくっていくにはどうすればよいかについて考える。	4					○経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む)。 ・情報通信技術の発達や規制緩和などにより世界経済がより緊密に結び付き、経済活動が世界的な規模で行われていることを理解できるようにする。 ・一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど、相互依存関係が一層深まっていること、国際経済問題の解決には国家や国際機構など多様な組織が協力していくことが重要であることを理解できるようにする。 ・グローバル化が進展する一方で、欧州連合(EU)のように地域的経済統合の動きが見られることについて理解できるようにする。 ・南北問題や南南問題などを取り上げ、貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が世界的な課題であることを理解できるようにする。 ・国連貿易開発会議(UNCTAD)など国際機構の役割や政府開発援助(ODA)の意義などについて理解できるようにする。	
1	2	B (3) 住生活と住環境(続き) イ 住居と地域社会との関わりについて考察し、防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫すること。			地域コミュニティと共生できる住居の在り方などについて理解し、住環境にかかわる社会的しくみについて理解する。		4		C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述すること。
	4	C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画		生活の基盤としての家計管理の重要性や家計と経済のかかわりなどについて理解する。	4				
2	4	(2) 消費行動と意思決定	適切な意思決定や消費行動によって意見を表明し、行動することが消費者の責任であることを理解する。	2					
	2	(3) 持続可能なライフスタイルと環境	環境問題に配慮するライフスタイルを主体的に考える。		4				
計	70	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1) 生涯の生活設計(続き)	将来の生活に向かって目標を立て、学習した内容とかかわらせて自分の目指すライフスタイルを実現するために生活を設計する。	70					